



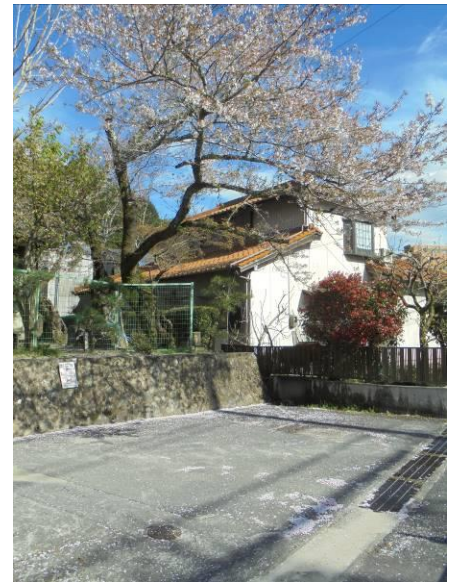
# 校長室だより

令和6年度

4月11日

NO. 3

## サクラ舞い散る中に、心躍らせる4月



昔の中学の国語の教科書に載っていた、大岡信氏の随想「言葉の力」を、いつも桜の時期になると思い出します。草木染で桜の色を出すために、花びらではなく桜が咲く直前の木の皮を煮出すと言います。桜は、美しい花を咲かせるために、全身で色を作り出しているというのだと。そして言葉も、同じだと。言葉の一語一語は、桜の花びら一枚で、美しい言葉も、それを発する人が全身で作る出すものだ。果たして、美しい言葉を紡ぎ出す全身(心)があるのか、今も自問することがあります。

満開の桜もいですが、春の風に舞い散る桜も、いいものです。思い出しても、むしろ散っていく桜の思い出の方が、多く思い浮かびます。「さくら舞い散る中に忘れた記憶と君の声が戻ってくる 吹き止まない春の風 あ頃のままで…」(ケツメイシ「さくら」)、桜の歌はたくさんありますが、散り際を歌った歌も多くあります。出会いや別れ、新たなスタートの不安、変わりゆく周囲への切なさ…など、何か心を揺すぶられます。

花びらが散った桜には、新しい若葉が芽をのぞかせます。気づくと山々は若い芽で色づき、新たなスタートを感じます。子供たちも学校になれてきて、新しい歩みを始めています。学校の「ふるさと学習」も始まります。今年も「田の先生」「山仕事サポーター」の方に、活動のご支援をお願いします。子供たちが、学校や学区に居場所を見つけ、学区の良さを実感できるよう、本年度も活動していきますので、温かく見守っていただければと思います。

○本年度も、学校の「ふるさと学習」をご支援いただく「田の先生」「山仕事サポーター」の方々の任命式を行いました。

「田の先生」	鈴木 清美 様	畔柳 浩司 様
「山仕事サポーター」	鈴木 宣行 様	川澄 善久 様